

TOPICS

アジア経済

日本総合研究所 調査部

主任研究員 野木森 稔

E-mail: nogimori.minoru@jri.co.jp

コロナ禍の東南アジアから広がる供給網の混乱

SMBC Asia Monthly

東南アジアでは、ワクチン接種率が伸び悩むなか厳格な活動規制による景気下押し圧力が続く。ベトナムを中心に工場稼働制限により供給遅延も発生し、サプライチェーンを通じた影響も注視する必要がある。

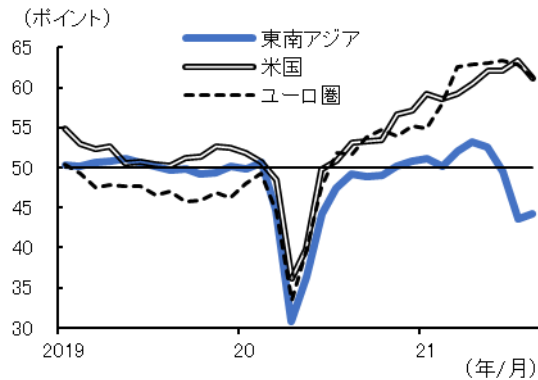
■東南アジアで続く厳しい活動規制

東南アジア諸国では、今年半ば以降、経済活動規制が強化されたことを受けて景気が大きく低迷している。東南アジアの製造業 PMI は6月以降急速に低下し、8月は域内の国すべてで判断のつかない目である50を大きく割り込む等、好調な欧米とは対照的な状況となった(右上図)。新型コロナウイルス禍での活動規制は、個人消費をはじめ内需を下押ししていることに加え、東南アジアでは工場の稼働制限も厳しくなる等製造業の生産活動への悪影響も目立つ。

東南アジアで厳格な経済活動制限が続く背景には、ワクチン確保が遅れ、接種率が伸び悩んでいることが挙げられる。9月13日時点のワクチン接種率(完了ベース)は、マレーシア(53.3%)を除けば、ベトナム(5.7%)、インドネシア(15.4%)、フィリピン(15.6%)、タイ(17.7%)で、世界平均の30.1%を大きく下回る。足元では先進国によるワクチン提供が増え、状況は改善に向かっているが、冷凍での輸送や保存、接種するための医療態勢等さまざまな課題があり、接種を急速に拡大することは簡単ではない。新規感染者数は、フィリピン(9月1~15日平均:19,336人、100万人あたり178人、以下同じ)、ベトナム(12,371人、127人)、マレーシア(19,072人、579人)で増加が続いている。インドネシア(5,891人、22人)、タイ(14,374人、206人)では減少傾向にあるが、ワクチン接種率が低いなか、活動制限は小幅にしか緩和できていない状況である。東南アジアでは活動制限継続により、年内の景気は下振れリスクが高い状態が続くと予想される。

とりわけ、ベトナムは活動規制が厳しく、経済が極めて苦しい状況にある。工場操業の条件が非常に厳格なため(製造業の従業員に対し住宅地からの通勤を認めず、「労・食・住」を工場内に集約することが必要)、多くの工場が操業を停止していることもあり、8月の鉱工業生産指数は前年同期比▲10.0%と7月の同▲2.7%からマイナス幅を拡大させている(右下図)。供給制約により輸出は同▲1.7%(7月:同+11.9%)と減少した。輸出財別では、履物(同▲39%)、木製品(同▲30%)、衣服・繊維製品(同▲11%)の減少が全体を押し下げた。

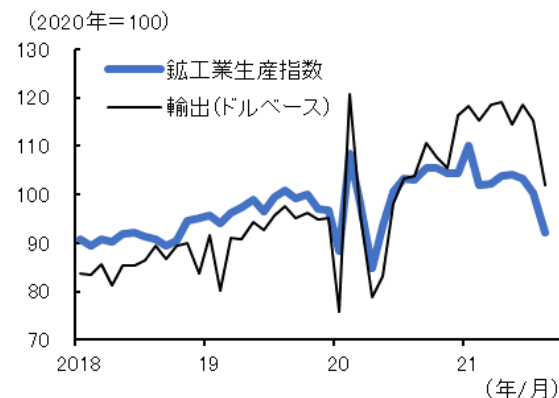
<製造業PMI>



(出所) IHS Markitを基に日本総研作成

(注) 東南アジアはインドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナムの指数をIMFの公表するPPPベースGDP(2020年)をウエイトとして合成

<ベトナムの鉱工業生産と輸出(季調済)>



(出所) CEICを基に日本総研作成

当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。

なお、近年、先進国において製造業の海外拠点を中国から分散する経営戦略「チャイナ・プラスワン」が進められ、ベトナムは生産移転先の最有力国となっていた(右上図)。しかし、足元のベトナム経済の失速は、そうした動きにも影を落とす。ベトナム以外の東南アジアの国でも、経済不振が続いており、サプライチェーンにおける存在感が高まっていない。実際、中国では、8月分の輸出が前年同月比+25.1%と前月の同+18.9%から伸び率を大きく高めているが、これは東南アジアの工場に代わって中国の生産ラインが稼働率を上げた可能性が一因として指摘されている。

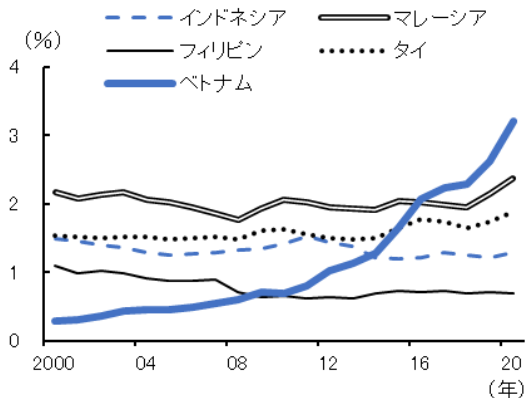
■サプライチェーンへの波及、日本企業への影響と注意点

東南アジアでの活動規制強化、とりわけ工場稼働制限は同地域の製造業の生産を下押しするとともに、サプライチェーン全体に混乱をもたらしている。特に自動車産業では大きな問題となっており、自動車製造に使われるワイヤーハーネス(車用組電線)とマイコン(車載半導体)の供給が不足している。わが国では、ワイヤーハーネスの輸入をベトナムに依存している(右下図)。ワイヤーハーネスは、一般的に電線を束ねる工程で人手を必要とすることが多く、活動規制の影響を受けやすい。ホーチミンでの厳格な規制が9月末まで延長されたこと等を考慮すると、供給難は当面続くことが見込まれる。一方、マレーシアにはマイコン等半導体の生産拠点が集中している。同国での工場稼働停止がマイコンの供給不足を通じて世界の自動車産業に大きな影響を与えており、年初から続く世界的な半導体不足に拍車をかけている。生産拠点がペナン州等を含め、マレーシアではワクチン接種が進展しており、工場稼働の再開も早晚進むとみられる。しかし、需要サイドか早期に工場のフル稼働を求めているなかで、十分な供給力を回復するまでには時間がかかる可能性がある。

日本の輸入財は、ワイヤーハーネスに加えて履物や衣類等でベトナムへの依存度が高いが、その他の財ではタイへの高依存が目立つ。タイにある鶏肉の下処理工場等で新型コロナウイルス感染が発生したことで、日本でのタイ産冷凍食品の販売が9月半ば以降停止するとの報道もある。タイでは、9月から店内飲食等の規制が緩和されているが、「厳格最高管理区域(ダークレッドゾーン)」に指定されているバンコクを含む29都県においては、夜間外出の禁止や在宅勤務の徹底等が引き続き求められている。

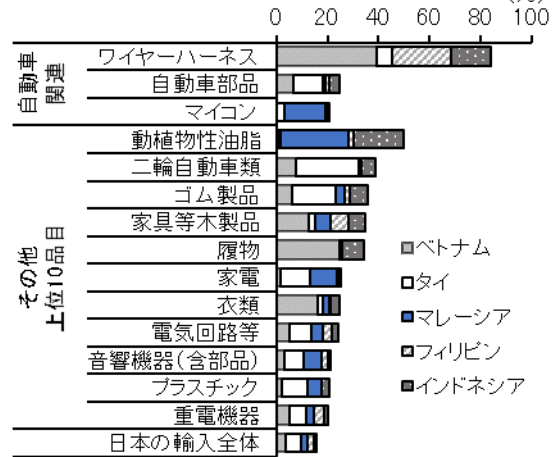
日本企業にとっては、ベトナムやマレーシアでの工場稼働規制が自動車産業に与える影響にとどまらず、タイの規制の行方がさまざまな産業に影響をもたらすリスクにも警戒する必要がある。

<日米欧中の輸入に占める東南アジアの比率>



(出所) CEICを基に日本総研作成

<日本の輸入に占める東南アジアからの輸入財の割合(2020年)>



(出所) 日本財務省「貿易統計」を基に日本総研作成
 (注) ワイヤーハーネス(輸入HSコード854430010)とマイコン(同854231032、MCU: マイクロコントローラー)は輸入品目9桁から抽出し、その他は財務省が定義する概況品を利用している

当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。